

これからもずっと、

この街に暮らしたい

街とヒトのために
ほんとうに必要な
意味のある行政を!



2020年の多摩は、 どうなっているのだろう?

こんにちは、遠藤ちひろです。

大学生の頃から多摩に親しみ、いまはこの街に暮らしています。
3年前の市議選では、わずか100票差で苦汁を飲み、
今回の市長選挙は、はじめて選挙に挑んだ31歳当時から再挑戦です。

その後、あらためて多摩ニュータウンの歩みを振り返り、
この街を創ってこられた先輩方のご意見をいただきつつ、
もっと素敵な街づくりに貢献できるよう、
ココロとカラダで動いてきました。

緑豊かで新鮮な空気を胸一杯に満たせる街。
僕は、この街で都心にはない「地域の可能性」を
もっと発掘していきたい。そして、「この街で良かった」と、
ココロから実感できる暮らしを求めていきたい。

多摩市には、年を経て太い幹となった街路樹がたくさんあります。
その高齢化した緑が、街に豊かな価値を与えてくれるように、
物事は、新しい価値を見出す姿勢と眼差しでまったく変わってきます。
僕は、現状を嘆くより、未来に新しい可能性を見出すことで、
ヒト・モノ・コトが有機的につながる豊かな社会に暮らしたい。

そして、だからこそ、
4年後、10年後に「良かったね」と気づけるコトを、
50年後のたしかな未来につながっていくコトを、
「しがらみFREEの無所属」を素地に、
コツコツと進めていきたいと考えています。





1976年茨城県生まれ。
早稲田大学政治経済学部卒業
(地方自治専攻)。
在学中に教育を通じた街づくりを目指し、
(株)早稲田パーマスタ設立。
同社代表取締役。
これまでの活動として、
ご当地検定「多摩・武蔵野検定」
初代事務局長。
多摩市環境審議会委員。
多摩青年会議所副理事長と歴任。
多摩の街づくりと教育問題の
重要性に目覚め、
市長として現場に立つ決意を固める。

こんにちは、 遠藤ちひろです。

昭和51年生まれ、34歳。景気が低迷、
役所の予算も少なくなっていくこと
が前提の時代には、私たちの世代が頑張ら
なければなりません。なんでも増税と借金
でまかせる時代は終わり、直面している
壁は自分たちの未来を創っていくための切
実な問題として乗り越えていく必要がある
のです。そのためには、いろんなアイデア
をよりしぼり、新しい可能性を発掘しなが
ら街と自治を「経営する」という発想が不
可欠です。

閉塞感のあるこんな時代、みんなが内向
き志向になりがちだからこそ、「市役所がい

ま何をやっているのか」と分かり易く情報
公開しながら、一つひとつ明るくクリアに
していくことも大切です。僕は、政治家や
行政にまかせっきりのやり方ではなく、市
役所の門戸を大きく開いてやる気のある人
たちをどんどん迎え入れ、みんなの想いを
満たしていくための街をつくっていきたく
と思っています。

「誰がやっても同じだよ」とあきらめみー
の行政に、これからもっと多くのみなさん
のご賛同をいただけるながら、一緒に夢の
あるビジョンを描いていきませんか。「昨日
と今日が変わったね」と思っていただけ

ような「街が息づいてくる自分らしい暮らし」
を実現していくために。

4年後、10年後、50年後の多摩の未来を想
像してみると、この街は大きな岐路にたっ
ており、いま何を選択し、いかに実行してい
かか、その先の未来は大きく変わってきます。
これから差されてくる子どもたちの未来に、
そして、この街を創ってこられた先輩方の意
思を継いでいくために、いま僕たちの世代が
頑張っていく時が来たのだと思っています。
「願うことは、叶うこと」。僕はみなさんの想
いや願いを、より良いカタチでこの先につな
げていきます。

いま→4年後→10年後 これから街は、こう変わります。

市役所や行政は どうなるの!?

いま

日本一高い市役所職員給与の問題が、市の財政を圧迫していますね。

4年後

市長の給与が50%カットされ、日本一高い職員給与が適正値に改善されており、その財源で子育てや高齢者福祉の水準が上昇します。

10年後

民間発想を取り入れた意識改革が根付き、みなさんと一緒に協働できる「多摩スタイル」の自治が行われます。

もっと安心して 子どもを産めるの!?

いま

保育園に入れず待機している児童の数は、年々増加(2009年度は約300人)。女性が安心して子どもを産み、育てられる環境が整っているとは言えません。

4年後

保育環境の整備が進み、教育費の負担は軽減。制度が整ったなかで、多摩の出生率が上昇します。

10年後

地域全体が子どもを育て、時には叱るというサイクルが復活。懐かしい未来の風景のモデルケースとして全国に発信されます。

お年寄りや病人に やさしい街なの!?

いま

産婦人科や小児科、救急救命を中心に医療難民が生まれ社会不安になりつつあります。また、お年寄りや障がいを持った方々の福祉は、財政難を理由に切り詰められていますね。

4年後

お年寄りや障がい者の方々に、積極的に社会参加していただく施策によって、活力を取り戻せる環境が整います。

10年後

医療や福祉の財源を確保し、歳を重ねても安心して楽しく豊かな老後を送ることができる社会が見え始めます。

街や産業は 元気になるの!?

いま

比較的堅調だった市民税収入が毎年のように減り続けています。高齢化の進む今後が不安ですよね。

4年後

「多摩ブランド」づくりによって魅力を増した街で、積極的な事業者誘致が進み、法人税や固定資産税の安定的な収入を確保しています。

10年後

ヒト・モノ・コトが集い、若者やシニア・主婦の起業が進み、整った産業基盤をベースに、さらなる企業誘致が進みます。

緑の環境と街並み、 まちの評判は!?

いま

新聞、マスコミ報道で少子高齢化の見本のように酷評された結果、ちょっと自信を失っていますね。

4年後

「メディア対策」や「ブランド戦略局」を中心に、多摩の評判を取り戻すプロジェクトが軌道に乗り始めます。

10年後

「住」、「働」、「学」、「遊」が備わった全国的に人気の多摩エリアが完成し、自分の街に誇りを持って暮らせるようになります。

こんな新しい発想で、
街をつかっていきます。

テーマは、
「和・環・輪・話」がつなぐ、
まったく新しい社会です。

緑の街がもっと豊かになる エコロジカルな眼差し

「緑の街」のブランディング

この街には、森や公園、居住エリアや道路の街路樹など多くの緑があります。「暮らしと緑」の観点から建物との調和や景観をより充実させていきます。緑をあらためて見直し、環境意識に基づいた街並と緑豊かな街のブランディングを推進していきます。

人にも自然にもやさしい「環境自治体」

廃油などのカーボンフリーのエネルギーを循環活用し、ゴミやCO2削減に取り組みます。また、多摩の農業生産者を積極的に応援し、地産地消を推進します。豊かな自然を守りつつ、公園や河川敷エリアの整備を進め、暮らしにも訪れる人にも魅力的な緑の街空間を創り出します。



赤ちゃんの笑顔が あふれる街

街にあふれる元気な子どもたち
出産一時金の増額と妊婦検診の公費負担を
充実し、出産にかかる費用を無償にすると
同時に、不妊治療を助成し、女性にやさしい
暮らしをサポートします。また、300人を
超す待機児童をなんとしても助けるために
「認定子ども園」などを活用し、保育施設の
充実を図ります。

安心して出産できるサポート

「ベビーギフト」と題して、哺乳瓶やおむつ、
肌着など、子どもが産まれた時に必要で
便利な「新生児用セット」を多摩市在住の妊
婦さんに無償配布し、安心な子育てを積極
的に応援します。これは北欧で採用されて
いる出産支援制度でもあります。

コミュニケーションが 人を守る街

安心して医療を受けられる環境
緊急患者を断らない救命救急を作り、高齢
者医療や小児科診療がいつでも確実に受け
られる病院体制をととのえます。

街が安全を見守る仕組み

地域コミュニティが充実することは空き果
対策にもつながります。安心して家を留守
にできるように安全を強化すると同時に、
コミュニティづくりも強化していきます。

ハンディを乗り越えられる街

障がい者のみなさんが自立できる作業所や
ショップの経営を支援するとともに、点字
ブロックの設置や手話通訳者養成などハード
とソフトの整備を充実させていきます。
また、バリアフリーを整備し、坂の多いエ
リアでは環境にやさしい電動カートなどが
利用できるようにします。

人を育てる学校、 人が活きる教育

地域のみんなで子どもを育てる
「小」の壁」と呼ばれる保育園と学童保育の
延長保育時間のギャップを解消します。ま
た、ニーズの高い小学校6年生までの学童
保育拡大を実現します。地域の大人が子ども
たちを見守りみんなで育てていく、懐か
しい多摩の風景をよみがえらせます。

活きた社会を学ぶ教育の再開

教員人材や校長職を外部から任期付きで採
用し、振り込み詐欺やカード破産などの脅
威に対抗できる実践的な法律・経済教育を
取り入れます。また、私立に行かなくても
進学で不利にならないよう、希望者が低料
金で放課後や週末に学習支援を受けられる
寺子屋制度「学校を支えるジジ・ババの会
(仮)」を立ち上げます。さらに、小中一貫
校の設立を前向きに進めます。

街が息づいてくるから 人が元気になれる街

スムーズで快適な通勤

職場に30分以内で到着できる環境整備に着手します。将来的には新宿や大手町までの通勤時間を大幅に短縮し、過去50年間改善されなかった長時間通勤問題を政治解決します。

エリア特性を活かした街並

「住」、「働」、「学」、「遊」の要素がバランスの良い街をつくります。大型百貨店でのショッピングと雑多に入り組んだ路地文化が楽しい聖蹟桜ヶ丘。魅力的でスタイリッシュな郊外住宅が立ち並ぶ永山、唐木田。レンガが映える多摩センターは、レジャーとビジネスが同居する多摩ニュータウンの中心都市へ。

多摩ブランド戦略局を設置

地元の資源を発掘します。例えば、多摩の街100景を募集し、美しい景色を眺めながら新名所が巡れるウォーキングコースの整備や、世界的な動員力を誇るサンリオピューロランドなどと多摩のブランド作りを連携して進めます。

リニア新幹線を見越して

相模原・橋本新駅の設置を想定し、多摩センター界隈にさらなるにぎわいを創出する整備を行います。新たな活性化の可能性として、積極的な誘致活動を行います。

駅までの距離がもっと縮まる

民間バス会社と協働し、これまで欠けていた「聖蹟桜ヶ丘—唐木田」や「和田—聖ヶ丘」などの南北交通をスムーズにする路線を開発していきます。



お年寄りのみなさんの夢が いきいきと語れる社会

暮らしの不安を解消する社会

予防医療を進めつつも、必要な医療費については社会全体で支える仕組みを作ります。

3世代が共生できる暮らし

2・3世代が近くに住める「近居」を促進する住宅政策を展開します。また、高齢者が住みにくい高層階などは、安価な学生用賃貸として活用していきます。学生や若者の地域活動への参加を促し、夏祭りや運動会に参加してもらうことで元気のあるニュータウンを再生させます。

交流を深める地域の集い

空き教室やニュータウンの空き部屋を利用したサークル活動を実施し、みなさんの現役時代の特技を生かしたシニア世代のやりがい・生き甲斐づくりを応援します。

一期一会を大切に おもてなしの行政

職員意識改革と情報公開

市長がまず襟を正し、給与の50%をカットします。そして、日本一高い職員給与を適正水準へと改善します。また、みなさんのお役に立てる行政となるために意識改革を徹底していきます。休日開庁と夜間受け付け窓口をさらに整備するとともに、全職員に福祉現場の体験研修や民間企業のインターンシップを義務付けます。

多摩の優秀な人材を積極起用します

意欲ある職員や民間人材の公募によって市長直属のシンクタンクを作り、しっかりと無駄を仕分けします。また、民間の得意分野は企業や団体に委託し、ハードとソフトの両面でより良い街づくりへとしていきます。さらに審議会委員や教育委員会などに女性と若年層採用枠を作ります。

これまでの10年間に こういふことをやってきました。

この街の魅力をもっと深く知り、ココロで学ぶために、
いろんな場に参加させていただいて、さまざまなコトが見えてきました。
やるべきコト、いらぬコト、大切なコト、大事にするコト……。
すべては生活者の視点に立って、
安心・安全でなおかつ楽しく「活きる」暮らしのために
これからもいろんなことをカタチにしていきたいと思っています。



東京ヴェルディと
サッカー教室も
行いました!

多摩の街づくり活動に参加 「青年会議所」や 「環境審議会」

中学生と高齢者世代が交流できる「文集作り」をお手伝いし、戦後や高度経済成長期の日本の姿など、お年寄りの知恵と経験を多摩市内の全中学生たちに伝えていくきっかけづくりを行いました。多摩青年会議所では、副理事長として、多摩センターの「ハロウィン」や「せいせき桜まつり」の支援など、市内を飛び回りました。また、多摩市環境審議会の委員もやらせていただき、環境面での多摩の豊かなロハス生活を応援し、ごみ減量日本一のまちづくりのお手伝いができたと考えています。

明日の担い手を応援 「早稲田起業家協議会」

早稲田起業家協議会の代表幹事に就任。学生ベンチャーの先駆けを担ってきました。起業家支援 NPO の理事としても若者やシニア・主婦のベンチャー企業設立支援に携わる毎日です。設立をサポートしてきた会社の中には、あっという間に成功を手にするベンチャーも生まれました。就職するという選択だけではなく、自分で会社を起こすという新発想と社会に根付かせる一翼を担っていると思っています。

2007年2月2日
読売新聞 朝刊



計6紙の新聞に
掲載されて、
本当に感謝です!

地域ブランディングの実施 「多摩・武蔵野検定」

多摩を好きになってもらうために、まず知ってもらうことからスタートしました。意外と知られていない地元の魅力を発掘する「多摩・武蔵野検定」を立ち上げ、初代事務局長として多摩のすべての自治体を歩きながら「多摩っ子」作りに力を注ぎました。多摩の魅力をしっかりと掘り起こし、多摩・武蔵野にある約70社の主要企業と大学の方々にも協力いただき、多摩ブランドにあこがれるファンづくりに奔走しました。担当した初年度は、1500名以上の方々を受検。新聞やラジオにも数多く取り上げていただき、多摩エリアのPRとしても貢献できたと思っています。



起業促進のコツは、
背中をずっと押して
あげることなんです!



このロボットは、
会話もできるんです！



子どもたちに夢のある教育 「科学ドットコム」の立ち上げ

子どもたちに数学と科学の面白さを伝えるため、大学院生や教員たちをネットワークし、「科学ドットコム」を立ち上げました。目を輝かせて実験に熱中する子どもたちを見て、一人ひとりの能力を引き出すことこそ教育の柱だと改めて痛感しました。「教える」という観点で大学院生の方にも多くの「気づき」があったのだと思います。これからも子どもたちの明日や未来が変わるような教育の提案を行ってまいります。

恩返しの広報活動 「講演」や「トーク・ライブ」

先輩方に助けられながら成長してきた経験を少しでもお伝えするために、一人ひとりと向き合う講演活動を行っています。これまで、学生情報センターパネルディスカッション「多摩を若者であみゆるる街にするには」、NHK BS ディベート「道州制・地方分権特集」、早稲田大学法学部「法政策論」、実践女子大学「ブランド経営とCSR～企業分析ワークショップ」など多数の会場にお伺いしています。



対話できる講演を
心がけてきました！



エコ・フェスティバルの運営 「tama ROCK」の 広報・営業担当

家族連れで音楽が楽しめる夏の多摩川河川敷での名物イベント「tamaROCK」の広報・営業担当として2000人超の来場を成功させました。エコ意識向上とフェスティバルの面白さを両立させるイベントとして、お客さんにはマイ箸とマイカップを持参していただき、「地球一体型フェスティバル」を実現しました。



会場内の電源は、
使用済み廃油で
まかないました！



わたしたちは 遠藤ちひろを応援しています!

(順不同)

政治学者 吉野 孝
(早稲田大学教授 恩師)

学生企業家であった遠藤ちひろ君は、
若いだけでなく新しいアイデアをもっています。
彼なら税金の使い方を見直し、
政策の優先順位を未来志向に変えることによって、
多摩市政を刷新することができます。

夫婦・家族問題コンサルタント 池内ひろ美
(東京家族ラボ主宰)

その行動力と実行する力をもって政界へと進出とのこと。
若い力を活かしてください。
ちひろさんの教育に対する思い、熱い気持ちを政治に反映し、
日本をいい国にしてくださいよう心よりお願い申し上げます。

起業家 与謝野 肇

(関東ニュービジネス協議会理事、元興銀インベストメント社長)
彼はベンチャー企業の代表取締役として立派に成功しています。
起業家にとって一番大事なことは、実現力。
政治でも大事なことはマニフェストを実現することです。
今の政治家に最も求められる「実現力」を
ちひろさんは持っていると言ってよいでしょう。

弁護士 村田光男

(東京 TAMA いのちのりー実行委員長)
今後の多摩地域にかいては、
特に、高齢者・障害者・子ども・消費者の視点で
政策を打てる首長が求められています。
ちひろさんは多摩地域 400万の皆様を視野に入れた
政策を打てる人材の一人と確信しております。

映画監督 若松孝二

(ベルリン国際映画祭 銀熊賞受賞作品監督)
皆さん、だまされたと思って、一度、
この若者に賭けてみようじゃありませんか。
ちひろくんが抱えている思いをどこまで実現できるのか、
どこまで政治家としてホンキでやれるのか、見てみましょう。

予備校講師 牧野 剛

(河合塾)
時代が変わって行く。従来の政党や政治家、労働組合、
利権集団、なれ合いの秋が終わる。
新しい発想、楽しい、丁寧な社会の春が、若者のエネルギーと
中年の行動力と老年寄りの知恵の結合で、作り出される。
その表現者代表が、遠藤ちひろ君だ。

エッセイスト 石原社一郎
環境家 染谷武男
元鎌倉市長 竹内 謙

衆議院議員 渡辺喜美 (みんなの党代表)
牧師 阿蘇敏文
映画監督 森 達也

衆議院議員 柿沢未途 (みんなの党)
中国文献学者 山口麗司
法学者 水島朝徳

- 小畑潤子 (10代 学生 桜ヶ丘)
ちひろお兄さんなら、多摩を“卒業しても住み続けたい街”にしてくれる。
そう信じてついていきます。
- 青沼 理 (40代 建築家 落合)
よい政策を実現するためには、まず人間力が必要です。
わたしは遠藤ちひろの政策よりも遠藤ちひろという人間を支持します。
- 白倉るい子 (70代 パート 轟ヶ丘)
いつも元気で前向きな「若者代表」のちひろさんが市長になったら、
私より高齢者はみんな安心ね。お願いするわよ。
- 原 立也 (20代 整体師 永山)
日本一の市職員給与問題! なんてどの候補も指摘しない人だろう?
しがらみの鎖を壊してくれ、ちひろ!
- 山本貴美子 (50代 主婦 関戸)
要望を聞くドア板が踏める人には見えてませんが、
実は地道なちひろさん。苦勞を人に見せないと、意外に古風で素敵ですね。
- 横田比沙代 (20代 アルバイト 永山)
フリーターの気持ちを分かってくれる政治家に、
あたしは初めて会いました。
- 松本恵子 (40代 会社役員 諏訪)
私たちのニュータウンが沈んでいくのを、黙って見ていたくありません。
だから私は「遠藤ちひろ」なんです。
- 小林美子 (60代 主婦 百草)
主婦は買い物も政治も厳しくチェックしますよ
ちひろ君、私たちが見守ってるからね!
- 庄司博之 (30代 tamarock 代表 和田)
柔軟な発想とフットワークの軽さを生かして、多摩市をより良く変えていく。
彼にはどういったチカラがある!
- 向後聖希 (30代 獣医師 丸引沢)
獣医としてたくさん動物に触れていますが、ちひろくんは
動物の直感と突破力を持ち合わせた肉食系市長になる気がします。
- 鈴木恵子 (50代 美容師 永山)
タマケン(多摩横断)、ちひろさんがプロデューサーだったなんて!
どかどか面白いわけてすね。
- 石川泰士 (10代 学生 永山)
僕たちにとって別世界だった政治の世界を、
身近なものにしてくれたセンパイです。若者への影響力大ッス!

「東京で一番若いリーダー、
遠藤ちひろと一緒に語る
多摩の未来(仮)」

主演の寺島しのおさんがベルリン国際映画祭で銀熊賞を受賞。
「キャタピラー」でいま最もホットな若松孝二監督をはじめ、
日本を代表する著名人が多摩に集い、遠藤ちひろと一緒に
多摩の未来を語るトークセッションです。
みなさまお誘い合わせのうえ、ぜひ会場までお越しください。

日時: 4月7日(水) 開場 18:30 開演 19:00~21:00
会場: パルテノン多摩 小ホール / 定員: 先着 200 名様
住所: 多摩市落合 2-35 (多摩センター駅から徒歩 5 分)
お問い合わせ先: 042-319-6440 (遠藤ちひろ事務所)

発行元:
東京で一番若いリーダーと
多摩市の明日を考える会 事務所
〒206-0033 多摩市落合1-6-2-1
サンライズ増田ビル3F
電話&FAX 042-319-6440
ホームページ
<http://www.e-chihiro.com>